

レモネードの輪 広がる



天童・ボランティア団体の活動に共感

レモネードを販売し、小児がん治療への支援金を集める活動「レモネードスタンド」の輪が県内でも広がっている。県青年の家（天童市）がコーディネーターするボランティアサークル「nico こえ」（菊池柚香代表）による、活動しながら取り組みを知ってもらおうプロジェクトが共感を呼び、50超の個人・団体が賛同。活動を実施したり、今後計画したりしている。

プロジェクトは今年3月にスタート。同サークルのメンバーの一人で、自身が小学3年生のころに小児がんを患った東海大山形高3年平田寧々さん（18）の提案がきっかけだった。プロジェクト始動がメディアで紹介されると、県青年の家にレモネードスタンドに関する問い合わせが次々と寄せられるようになった。

県青年の家によると、8月31日現在の賛同者は個人3人、学校2校、ボランティアサークルや社会福祉協議会など17団体。 「nico こえ」メンバーの手ほどきを受けながら、レモネード作りを体験する説明会参加者
＝天童市・県青年の家

小児がん治療支援 県内50超の個人・団体賛同

体、企業11社で、販売したペットボトルは約1万本に上るといふ。

賛同者による取り組みはさまざまで、体育行事で生徒にレモネード（ペットボトル入り）を配り小児がん啓発を行った学校もあれば、店頭に常設のレモネードスタンドを設置した飲食店もある。また賛同者の活動をきっかけに新たな賛同者が生まれるなど、支援の輪が人から人へと広がっているケースもある。

問い合わせの増加を受け県青年の家では7月下旬、レモネードスタンドの実施希望者15人を集めて説明会を開催。同サークルのメンバー6人が、レモネードの作り方を手ほどきした。

山形明正高（山形市）2年でインターアクト部に所属する川井美幸さん（16）は「分量が決まっているので誰でも作れると分かった。9月下旬の文化祭『明正祭』で、ぜひ取り組みたい」と話していた。

（落合慶）